

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑 1Fユニット		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	令和4年10月23日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的で安心できる環境の中で、利用者の「想い」や「その人らしさ」を大切に、笑顔で自由に生活できるよう援助しています。年間を通じた季節の行事、手作りの料理やおやつ、ロビーの壁面を彩る季節感あふれる手作りの壁画飾り等に取り組み、利用者楽しく生活して頂けるよう心がけています。
 ○同法人内の医療機関(帯山中央病院)が隣接している為、日常の健康管理から救急時、病状悪化時などの対応がスムーズにでき、安心できます。
 ○認知症の進行を遅らせ予防する効果が注目されているアートセラピー「臨床美術」を継続的に取り入れています。
 ※今年度も、コロナ禍の中、感染予防に努めるとともに、外出や面会が制限されたため施設内で利用

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の変更(現場を経験)という過度期にあるが、ホームを自宅の沿線として捉えた自由な生活、入居者と職員との関係性の見直しは、新型感染症という難局にホーム内でのイベントを充実させる等、入居者の要望や職員の提案の実現として生かす等具体的にサービス向上に反映させている。入居者の思いである外出には制限もあり、入居者と共に作り上げた食事会、夏祭り等今できることに注視し支援している。母体医療機関に隣接というスケールメリットを生かした医療との連携や、毎月の家族への報告書は訪問もままならない家族への不安軽減として生かされている。ユニットによる介護度の違いはあるものの、落ち着いた生活ぶりにグループホームの本来に姿が見られ、地域情報をリサーチしながらこれまで培ってきた地域との交流の再開に向けた取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに掲示し、毎朝の申し送り時に全員で唱和している。ケアを実施する基準は、理念にあることを共通認識とし、日々の実践に繋げている。また、「理念に基づいた介護」を部署目標とし、法人の人事考課制度に組み入れ、定期的に評価できるようにしている。	理念である「入居者の想いを大切に、家庭的で安心した生活が過ごせるように支援する」の実践に向け、部署目標を4項目のホーム具現化して示している。目標として、笑顔と笑顔、楽しみながらの生活の提供、家族・地域との交流、創意工夫と環境整備の4項目を掲げ、入居者の笑顔を引き出すようスキップに努める等目標達成に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物は地域の商店を利用している。また、自治会に加入し隣保組長の担当や回覧板のやり取り、現在はコロナウイルス感染対策の為にできていないが、町内行事に積極的に参加し、地域交流を図っている。利用者の方にとっても楽しい行事になっている。今年度もコロナ禍のため、縮小または中止している。	自治会に加入し回覧板の受渡しや散歩や受診時に家族と会い地域を歩く等、コロナ禍で外出制限という現状に個別支援に取り組んでいる。地域での行事も縮小され、ボランティアの受入れも中止せざるを得ない状況にホーム内の生活を充実させている。ボランティアとして活動されている家族に呼びかけたいとの意向もあり、コロナ感染症の状況によりボランティアの受入れを検討いただきたい。	地域の集まりがあれば臨床美術を見て頂く事もグループホームの理解を深める機会となることと思われる。コロナ感染症の収束を見据え地域の情報をリサーチし、今後に備えていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で自治会・老人会・民生委員の方々に認知症についての知識や対応要領等について説明、助言を行っている。また、見学や申し込みに来られた方に対し、介護相談に対応したりしている。今年度もコロナ禍の為運営推進会議は実施要領を変更している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営方針・サービス状況・利用者の状態や活動内容等を報告し、情報・意見交換を行い、利用者の家族、地域の方々からの要望や助言をいただき、サービスの向上に努めている。今年度もコロナ禍の為運営推進会議は実施要領を変更している。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、新型コロナ感染拡大防止として書面開催としてホームからの連絡や報告、入居者の状況、感染予防対策、身体拘束適正化委員会としての情報等報告書に回答書を添付し意見等を収集し、ケアサービスの向上に反映させている。	運営推進会議の中で身体拘束について触れているがその続きを行いたいとの意向が聞かれた。運営推進会議の構成メンバーは充実しており、家族の面会が可能となれば、家族にも運営推進会議への参加を促されるを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員へ参加いただき、意見交換し情報を得ている。また、介護相談支援員の訪問時意見交換を行い、また報告書により全員が内容を把握し、ケアに反映させている。今年度もコロナ禍の為、介護相談支援員の訪問は中断中。	運営推進会議のメンバー（地域包括支援センター職員）としての情報提供や意見交換の他、市からの勉強会の案内や抗原キッド申込等メールで寄せられ感染防止対策等に生かさせている。アクシデント等の状況に電話で報告し、報告書の提出等の指示を仰ぐ等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会で身体拘束をしないケアについて再確認し、職員の意識を高めている。非常口にはセンサーを設置し、職員が一人になる夜間帯等是不審者侵入防止も兼ね、玄関や内ドアの施錠を行っている。スピーチロックとならないように言葉かけにも注意している。	身体拘束適正化委員会として年2回の勉強会及び運営推進会議の中で報告する体制としている。スピーチロックとして、つい使ってしまう「ちょっと待って」等職員同士が注意喚起するとともに転倒リスク等を把握し優先順位を職員間で決めてケアに当たっている。新規入居者には行動パターンを把握するまでは人感センサーを使用しているが、判明次第使用を中止している。また、法人内でのアンケートによるオリエンテーションや、職員のストレスチェックにより職員にも寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等については施設内での勉強会を実施し、言葉遣い、態度等も虐待にならないようお互いに注意しあい、意識の統一を図っている。また、利用者の入浴の際に、全身状態の観察を行い、常に状態変化に注意している。また、職員がストレスを抱え込まないように法人にてストレスチェックを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方もおり、プラン説明や面会時に後見人の方から意見、要望、助言をいただき、学ぶ姿勢を心がけ、関係性を深め、職員間で共有し支援が円滑に行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、相手の年齢や理解度の応じた分かりやすい説明を心がけ、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。説明は主に管理者が実施しているが、変更内容は職員にも周知させ問い合わせにも対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは運営推進会議参加時やケアプラン説明字、面会時や電話連絡時等に直接意見や要望等を確認している。玄関に意見箱を設置しているが、意見が少ないため、家族アンケートも実施し、集計結果はご家族及び職員間で共有している。クリスマス会には多数の家族が参加し、互いに意見交換がなされている。今年度もコロナ禍のため実施要領変更している。	毎月個々の様子や医療面及び担当職員がメッセージを家族に配布し、家族の不安軽減に努め、体調変化時に電話で報告し、要望等を聞き取りしている。また、家族へのアンケート(行事等)調査により行事での弁当等に繋げている。例年であれば行われていた家族との交流の機会としてクリスマス会での意見交換も現状としては開催も危ぶまれ、プレゼントは依頼している。SNSを活用し、イベントやおやつ等の状況を家族へ発信している	家族の面会については、オンラインや玄関などが活用されているが、今後の検討課題であると思われる。新型コロナウイルス感染症が更に長期化する場合に備え、対面場所等を検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎朝の申し送り時を利用し、職員の意見を聞きながらサービスの向上に反映できるようにしている。また、必要時は職員の意見を介護事業部長や関係部署へ直接意見具申している。勤務割は職員の希望を考慮し、各ユニットリーダーとともに作成している。	日々の申し送り、毎月スタッフ会議では職員からの行事の提案や入居者毎に担当職員を配置し、様子観察の結果を検討する機会としている。インシデントやアクシデントなどには都度意見交換を行っている。新たな施設長は現場からであり、入居者との信頼関係を築き上げているとともに、職員も意見等が言える環境、風通しの良い関係を築いている。委員会活動も多く、各委員会活動特、特にSDJs委員会を重点的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織の活性化と人材育成のため、法人内で人事考課制度が導入されており、年2回各職員ごとに目標・実施・評価を面接しながら行い、賞与等にも反映されている。各業務内容の精査・整理を指示、休憩時間を確保できるように働きかけている。労働時間は守られているが、超過勤務の場合は超過勤務手当が適正に支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を職員に広報し、法人内研修や外部研修の機会を作っている。法人内研修不参加者は各自資料を確認しレポートの提出をしている。スタッフ会議時には外部研修の報告を通して、他の職員への情報提供・共有を行っている。今年度もコロナ禍のため、実施要領を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会からの情報収集に心がけ、積極的に研修会に参加するようにしている。また、包括支援センター主催の地域推進協議会懇談会へ参加し、他事業所との情報交換を実施している。法人内グループホームとは常に情報や事例を共有している。今年度はコロナ禍のため各種研修は縮小されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者やご家族から情報を得たり、入居面談時からご本人やご家族に心身の状況や希望を確認し、出来るだけご本人の意向に沿った対応を心がけている。ご本人が安心して生活できるようによく観察・声掛けし、反応を見ながら安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンを中心に、ご家族、後見人の方の話に傾聴し、できるだけ相手の立場で考え、思いを受け止め、方向性を調整し、ご家族とともに利用者を支えることができるような関係づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望をもとに、主治医や職員の意見も取り入れ、ご本人やご家族にとって今何が必要なのか優先順位を考え、納得が得られ安心して支援が受けられるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自主性を尊重したうえで、できることを自ら行う雰囲気づくりをしている。職員と利用者は介護する・される関係だけではなく目線を同じくするように、また、喜怒哀楽を共にしながら互いに支え合い楽しく過ごせる関係づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってご家族の存在、支援はかけがえのないものだということを常に念頭に置き、また、ご家族へも伝え、ともに支えていく関係づくりを心がけている。ご家族へのお便りを毎月発送し、体調や診療結果、担当職員からのコメント、ご本人の写真を入れ施設内での様子を理解していただけるよう工夫している。今年度もコロナ禍のため面会制限もあり、文書や電話、オンラインでの面会等を活用し、ご家族との連絡調整を重点的に実施した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の長い利用者にとってはホームは馴染みの場所となり、職員とも馴染みの関係ができていく方も多し。利用者お一人お一人が「ここが居心地の良い場所」となれるよう、また社会との関わりも支援しながら対応している。特に大切な家族との関係が途切れないよう面会や外出を依頼、面会時はゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。今年度もコロナ禍のため、面会や外出を一部制限している。	自宅でお祝いをしてくださる家族や窓越し・電話等による家族の面会、かかりつけ医の継続しているが、馴染みの人・場所とのかかわりは難しく、生まれた場所(幼少期の記憶等)会話の中で引き出している。誕生日のお祝いに自宅に帰る等家族の協力も有り、入居者同士や入居者と職員との馴染みの関係は出来上がり、ホームが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や関わりを観察、見守りを行い、効果的な席替えを検討したり、臨床美術や同じ作業、レクリエーションを通して利用者同士がコミュニケーションを図れるように関わっている。トラブルになりそうときは、職員が間に入り、トラブルを回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やほかの事情で、退去されサービスの利用が終了した場合も、入院先を尋ねたり、ご家族や相手先に、入居中の状況、習慣、好みや気付き、ケアの工夫等の情報を提供し、相談に応じ安心して継続した支援が行えるように努めている。今年度もコロナ禍のため、訪問等は制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の思いや意向について、否定的な言葉は使わず、ゆっくり心を寄せ、思いを把握するように心掛け、混乱や把握が困難な場合は、時間をかけ寄り添い、ミーティングを重ね問題解決に取り組み、ご家族からも情報を収集ご本人の思いに沿えるよう努めている。	自発的に発する入居者が多い1階、話を遠慮される2階という違いはあるが職員が聞き取りしたり、ケアマネジャーが把握した事案を職員との話し合いによりプラン作成に反映させている。管理者は、職員の思い込みのケアを行わないよう指導し、入居者の声に傾聴する事としている。また、表情や入居者の発する言葉等から推察し、本人本位の生活となるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの暮らしや、大切にされていること、援助を受けられる際のご本人の嫌な行為や言葉かけ等、生活歴やフェイスシート、ご本人及びご本人に関わってこられた方からの情報等を把握し、戸惑いがなく生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、休養、活動、睡眠、一日の過ごし方等、個人個人の状況や気付きを個人カルテや連絡ノート等に日々記録し、申し送りやスタッフ会議等にて職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望に沿ったプランを作成し、必要時に追加・変更を行っている。入居者を職員の担当制とし、定期的にモニタリングを行い、毎月のスタッフ会議等でケアを検討し、利用者個々に合わせた自立支援ができるよう介護計画に反映させている。	本人の言葉や家族の要望に応じ検討して作り上げたプランは、毎月のケアカンファレンス、定期的なモニタリングとともに、退院後にはこれまでのプランの継続可否の見極めと、新たな課題について検討する等現状に即したプランが作成されている。家族には担当者会議としてまずはプランの変更を説明し同意を得ている。また、デイリー記録は観察や気づきの結果を記し、プラン作成に反映させる等具体的且つ詳細なプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の担当者を中心に日々の実践の中で気づきやケアの工夫等を介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努め、必要時には介護計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人のニーズに合わせて、ボランティアの支援やご家族の協力を得たり、その時のニーズに応じて柔軟な対応で支援ができるように心掛けている。認知症の進行を抑えるために、臨床美術を積極的に実施し、また、訪問理美容を希望される方には調整、実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や法人行事への参加、近所への散歩、ボランティアの訪問等、馴染みの関わりの働きかけで、生き生きと安全に安心した生活ができるように支援している。今年度もコロナ禍のため、一部縮小している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による訪問診療、専門医(精神科・歯科)の往診(訪問診療)等を選択できるよう医療環境を提供するとともに、体調変化時はご家族へ連絡の上、専門医等への通院支援も実施し、ご本人及びご家族の希望の医療を受けられるように支援している。	ほとんどの入居者が母体医療機関をかかりつけ医として、訪問診療にて支援を受けている。内科以外の専門医の場合には往診とオンライン診療併用とされ方もおられる。皮膚科などの他科受診には家族の協力が得られ、地域の中を徒歩で通う事で刺激に繋がっている。母体医療機関の外来から入居者の体調変化について問い合わせがあるとともに、夜間帯の対応が可能である事も安心の一つになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内医療機関の支援もあり、看護師との24時間連絡体制は確立されている。介護職は定期的に健康観察を実施し、利用者の身体の異常、病状悪化を早期に発見、報告相談し、お一人お一人の健康管理や医療支援につなげている。施設内での看取り実施時は、訪問看護師のサポートで安心できる体制が作られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療を受けられるように、日々の暮らし方や大切にされていること等の情報提供を行い、ご本人、ご家族が安心できるよう情報交換に努め、医療関係者、ご家族と協議を重ね、早期退院へ向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と年1回、重度化した場合における指針、事前指定書を説明し確認している。病状が重度化した場合は、状況に合わせご家族・医師・看護師・関係者と早期に話し合いを行い方針を決め支援している。2018年度から看取り体制を整備し、今年度まで6名の方の看取りを実施した。	契約時及び毎年家族の意向を確認し事前指定書を交わし、重度化した場合の方向性を話し合っている。緊急時には家族が指定する医療機関への搬送が多く、職員は変化する家族の思いを尊重している。入浴介助が厳くなる等対応の変化時には母体の看護職員と話し合い、母胎との連携を図っている。ターミナルケアについて、オンライン研修に参加した職員による復講を全員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応ができるように、急変時の連絡体制、AEDの操作要領等をマニュアル化し、実技指導も入れながら訓練している。スタッフ会議の際、ヒヤリハットや事故報告書の振り返りで介護技術の習得やレベルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回(日中と夜間を想定)、地域でも年に1~2回の訓練に利用者も参加し、地域での協力体制が築かれるように努めている。台風接近時はマニュアルに従い、事前準備を実施している。今年度もコロナ禍のため、地域での訓練は中止している。	法人全体での訓練に参加する他、ホーム独自で火災対応マニュアルを基に通報手順などについて勉強会を開催している。12月には入居者代表も参加し、実際に避難してもらうことで経路の確認や課題点等を検証したい意向である。備蓄に水や非常食、紙オムツ等を備え、置かない分については法人で保管し、非常食は期限切れ前に食すこととしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って言葉掛け、対応するように心掛け、個人の人格を損なうことのないように接している。人生の先輩であることを念頭に置き、不適切な言葉遣いや大声での会話等は互いに注意しあっている。入居時には利用者の呼び名をご本人やご家族へ確認している。	スタッフ会議で個人情報の保護やプライバシーについて気づきを出し合い、共有認識を持って対応すること等を確認している。特に入室時のノックの徹底や申し送りのさいに個人名を出さない事等を申し合わせている。呼称は事前に家族に確認し、苗字や以前から呼ばれた下の名前にさん付けで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように場面作り心がけ、ご本人のできること、できなくなってきていることや、やりたくないことを表情や言葉の中で見極め、できるだけご本人の今の思いに寄り添い支援できるようにスタッフ全員努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活のリズムを考慮しながらも、職員側の都合やペースに合わせた支援ではなく、お一人お一人のペースに添い、その日の状態に合わせた柔軟な暮らしを心がけ支援している。食後の休息や就寝、起床時間等もご本人の体調や様子に合わせて対応、レクリエーションへの参加や家事手伝いも、ご本人の意向を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、できる限りご本人の要望にかなう身だしなみや季節感に合う支援に心がけている。洋服選びを一緒に行いオシャレを楽しむ雰囲気を作っている。希望者へは訪問理美容を利用させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人に合わせた食形態、食事量とし、献立の説明等、楽しく食事できるよう配慮している。料理の注ぎ分けや茶碗拭き、お盆拭き、テーブル拭き等利用者と一緒に準備や後片付けを行っている。食事中は音楽をかけ落ち着いて食事ができる環境を整えている。献立は季節に応じた物となっているが、各種行事食の際には食器や盛り付けを変え特別感を味わえるよう工夫している。検査者は検食簿に意見を記入し、業者への調整や調理に反映させている。	業者から配達された食材をもとに献立に沿ってホームで調理している。一人ひとりの入居者に食形態や量を検討し、食の進み具合を調理担当者に伝え調理に反映させている。入居者も出来ることで調理に関わるユニットはつぎ分けや食後の片付け等共に取組み、食への関わりを中止したユニットとの違いはあるが、職員が料理を作る音や匂いが食の意欲を引き出し、ホームの規則正しい食提供が健康改善に繋がっている。月に一回はどこかの郷土料理の提供や外注弁当等楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェック、体重測定等により栄養状態を把握し、利用者の状況により声掛けや食事介助を実施し、栄養補助食品の利用や刻み、トロミ、ミキサー食、食器の変更等工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後にお一人お一人に合った声掛けや援助方法で口腔内の清潔保持に努めている。ご本人、ご家族の要望や必要性をもとに訪問歯科の導入を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人お一人の排泄パターンを職員間で話し合い、把握し、可能な限りトイレでの排泄を目指し、利用者に合わせた排泄支援ができるようにしている。布パンツに小型パットを使用したり、昼夜別にオムツを使い分けたり等工夫している。	排泄状況の記録により入居者個々のパターンを把握して、日中は極カトイレでの排泄を心掛けている。時間帯や個々の尿量等を考慮して排泄用品を使い分け、夜間帯はポータブルトイレの使用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表で各個人の排便状況を把握し、好みの副菜や飲み物等の工夫で必要な食事、水分量を摂取できるように留意している。便秘時は早朝の冷水・牛乳等接種や、体操、腹部マッサージ等で改善を図り、自然排便を心がけているが、必要時は医師の指示にて緩下剤の与薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回で入浴予定を決めているが、声掛けを工夫し、無理強いせず気分良く入浴していただけるよう努めている。利用者の身体状況によっては職員1～2人で介助し安心して入浴できるようにしている。入浴後はスキンケアを実施し、必要な方へは足浴等も行っている。拒否がある場合は、時間をずらしたり、職員を変更したりして対応している。	週2～3回の入浴を午前中を中心に支援している。入浴拒否が見られる方には無理に誘わず、納得して入ってもらうようにしている。湯船でゆっくりしてもらうことで、精神的な安定にも繋がることとして身体状況によっては職員の複数人が支援している。入浴拒否時には時間をずらして誘ったり、午後へ変更し、立ち上がりの状況による二名体制や、足湯しながらのシャワー浴、汚染時のシャワー等により清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中必要な方には食後の休息をとっていただいている。お一人お一人の就寝時間や安眠できる体位を把握し、夜間不眠時や不安時には付き添い傾聴する等対応することで体調管理や精神面での安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用などを把握し、薬剤師との連携を十分取り、誤訳事故がないよう職員2人で声出し確認、服薬介助を行っている。適宜個人カルテに目を通し、薬の内容把握に努め、病状の変化等が薬剤師や担当医師へ報告し、治療に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を確認し、ご本人の得意なことや好きなことを把握するよう心がけている。洗濯物たたみや食後のお盆拭き等のお手伝いをしていただいているが、負担にならないように声掛け、確認する等配慮しながら行っている。習字、折り紙、塗り絵、計算ドリル、新聞読み、歌等楽しそうに実施されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域行事への参加、近所への買い物、ご家族付き添いによる受診、外出等ご家族の協力もいただき、できる限りの外出支援を実施したいと考えている。今年度もコロナ禍のため制約が多く、また人員に余裕がなく、日常的な外出支援はできていないが、庭先での花植えや除草、受診時に自然や季節を感じていただけるように配慮している。	長期化する感染症の影響により、地域サロンへの参加や地元商店での買物が出来なくなっており、玄関前の花植えや草むしり等により、外気に触れる機会としている。専門医の受診には家族と一緒に地域に出る一つの機会である。高齢化により車椅子利用が増えてきており、臨床美術や体操、レクリエーションの充実を図っている。	入居者は室内での生活が中心となっており、外に出る意欲も低下してくると思われる。外出したいとの思いを引き出し、コロナ感染症の状況により、家族との受診以外にも、家族の協力も得ながら、外に出る機会を作られることを期待したい。また、天気の良い日には敷地内で身体を動かす等出来る事で支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の買い物は職員がお預かり金で実施している。お預かり金の管理は金銭出納管理委託契約書を取り交わしたうえで実施している。お金が手元にないと不安という方もおられ、ご家族と調整し、少額を所持していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会ができないご家族へは電話連絡をした際に、ご本人と変わり、お話していただいている。ご本人からの電話希望にも対応し、取次を行っている。利用者が手紙を書かれることはほぼないが、はがきやメッセージカード等受領時は読み聞かせをし、居室へ掲示し喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるよう食卓のテーブル配置を工夫し、また、季節を感じていただけるよう食堂の壁面飾りを毎月作成している。食堂のテレビは壁の上部へ設置し、皆さまが見やすいようにしている。テレビの音量はうるさくないように注意している。	毎月の担当者が中心となり壁面飾りを施し、七夕飾りや12月にはクリスマスのツリー等季節感を醸すよう工夫している。また、テーブル配置は感染対策や入居者の関係性に配慮したレイアウトとしている。台所からの調理の音や匂いが食への期待を演出し、動線に考慮した住環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない利用者はトラブル防止のために席を離したり、テレビが好きな方はテレビが見やすい席にしたり、そのためのテーブルの配置も工夫している。また、食堂にソファを設置し、自由に使用していただいている。利用者は食堂と居室を自由に往来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、使い慣れたタンスや家族写真、入居後に臨床美術で作成した作品を置き、これまでの生活の継続と安心して穏やかに居心地良く生活できるよう支援している。夜間の明かり遮断やプライバシー確保のため、居室のドアの窓には布を付けている。	新たに入居する家族には感染症対策をした上で実際に居室を見てもらい、持込み品を検討してもらっている。タンスやテレビ、仏壇や、使いなれた小物が持ち込まれ、職員が得意分野を発揮した居室としている。(例:桜の時期には桜の下で写真撮影した写真を掲示等) 夜間の明かりへの対策等入居者一人ひとりに応じた居室環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や食堂に無駄なものは置かず、広々として入居者が行き来しやすい環境にしている。共有スペースには手すりが設置しており、動線も分かりやすく、居室が分からない方には、ご本人がスムーズに行動できるように表示や声掛けしている。転倒防止のため、居室内の床にクッション材を使用したり、車椅子のフットレストにカバーを付けるなど安全面の工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑 2Fユニット		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	令和 4年 10月 23日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的で安心できる環境の中で、利用者の「思い」や「その人らしさ」を大切に、笑顔で自由に生活できるように援助しています。年間を通した季節の行事、手作りの料理やおやつ、ロビーの壁面を彩る季節感あふれる手作りの壁面飾り等に取り組み、利用者を楽しみ生活していただけるよう心がけています。
 ○同法人内の医療機関(帯山中央病院)が隣接しているため、日常の健康管理から救急時や病状悪化時などの対応がスムーズのでき、安心できます。
 ○認知症の進行を遅らせ予防する効果が注目されているアートセラピー「臨床美術」を継続的に取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの見やすいところに掲示しており、毎朝の申し送り時に全員で唱和し、毎日のケアに意識的に実施している。また、「理念に基づいた介護」を部署目標として、法人の人事考課制度の中に組み入れ、定期的に評価できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物は、地域の焦点を利用して。また、自治会に加入し回覧板のやり取りや防災訓練、運動会などの町内行事に積極的に参加したり、文化祭には入居者の臨床美術での作品を出展したり、地域の方と交流を図っている。また、老人会のボランティア訪問は、入居者も楽しみにされている。今年度はコロナ禍のため、各種行事は縮小、または中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、当事業所の事例を元に、地域の方々に認知症についての知識や対応についての説明や助言を行っている。また、見学や入居申し込みに来られた方に対しても、介護相談など対応している。今年度もコロナ禍のため、運営推進会議は実施要領を変更している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、入居者の状況報告や活動内容を説明し、入居者のご家族や地域の方からの要望や助言をいただき、サービスの向上に努めている。参加できない方には議事内容を配布し、お知らせしている。今年度もコロナ禍のため、運営推進会議は実施要領を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員の方へ参加いただき、意見交換をしている。また、介護相談支援員の訪問にて意見交換を行い、ケアに反映させている。必要時には行政機関へ報告、相談している。今年度もコロナ禍のため、介護相談支援員の訪問は中断している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議内で勉強会を行い、意識付けしている。玄関の施錠はしていないが、内ドアにはフロアに職員が1人になる夜間帯は防犯を兼ねて施錠している。非常口にはセンサーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加したり、スタッフ会議内で勉強会を行い、意識の統一を図っている。また、入居者の入浴時に全身状態の観察を行い、常に状態変化がないか注意している。また、職員がストレスを溜め込まないように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には制度の活用ができるように話し合い、橋渡しができるように心がけている。ケアプラン説明や面会時に利用されている方やそのご家族からの助言をいただいた上で、職員同士でそれらを共有し、支援が円滑に行くように心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、相手にわかりやすく、また、納得されるまで説明し、同意を得ている。主に管理者が実施しているが、職員も説明する内容を把握し、対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは運営推進会議での参加時やケアプラン説明時、面会時などに意見や要望等を聞き取り、確認するようにしている。また、玄関に意見箱を設置している。クリスマス会には多くのご家族が参加され、互いに意見交換が行われている。今年度もコロナ禍のため、クリスマス会は実施要領を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や朝の申し送りを利用し、職員同士で意見を話し合い、サービスの向上に反映できるようにしている。また、必要時には職員の意見を介護事業部長へ意見具申している。勤務割は職員の希望を考慮し、ユニットリーダーが中心となって作成している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	組織の活性化と人材育成のため、法人内で人事考課制度を導入しており、年2回各職員ごとに面接しながら行っている。労働時間はきちんと守られるように働きかけている。超過勤務や休日出勤した場合は、適正に手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を職員へ周知させ、法人内や外部研修の機会を作っている。法人内研修会不参加者は資料を確認し、レポートを提出している。外部研修参加者には、スタッフ会議時に情報提供をお願いしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護協会や県のグループホーム連絡会からの情報を得ながら、常に心掛け、積極的に研修会へ参加するようにしている。また、包括支援センター主催の地域推進協議会懇談会へ参加し、他事業所との情報交換を行っている。同法人内もグループホームとは常に情報共有している。今年度もコロナ禍のため、各種研修は縮小している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者やご家族から情報を得たり、ご本人の希望を確認し、できる限りご本人の意向に沿った対応を心がけている。また、利用者との会話や表情、反応を見ながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や後見人の方お一人お一人の話に傾聴し、利用者とともに支えることができるような関係づくりに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を、主治医や職員の意見も取り入れ、優先順位を考え、話し合い、納得して支援が受けられるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の意思を尊重し、できることを行っていたり、雰囲気づくりをしている。職員は利用者目線と目線を合わせ、互いに支え合い、楽しく過ごせる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のご家族へ対する思いと、ご家族のご本人へ対する思いを念頭に、ともに支えていける関係づくりに努めている。毎月、ご家族へはご本人の1か月間の様子や行事の写真を入れたお便りを送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各々の馴染みのお店での買い物など、出かける場所を積極的に作り、社会との関わりの支援を心がけている。また、ご家族へ外出の支援をお願いしている。今年度もコロナ禍のため、面会や外出を一部制限している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを観察し、席替えをしたり、お手伝いや音楽鑑賞、ゲームなどでコミュニケーションが図れるように努めている。トラブルになりそうときは、職員が間に入り、回避するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他事情で退去された場合も、入院先を尋ねたり、入居中の状況や気付き等の情報を提供したり、経過をフォローできるように努めている。また、退去後でも相談が気軽にできるように声掛けをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人らしい生活をしていただけるよう情報を集めたり、ご本人の意見を傾聴したりしている。また、入居中の状況や習慣、好み等を観察し、スタッフ会議等で情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各々の生活歴やフェイスシートの把握、ご家族等への聞き取りを行い、以前と同じような生活ができるように心がけている。また、ご本人との会話にも注意し、必要な情報のピックアップに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の状況や気付きを個人カルテ等へ記録し、申し送りやスタッフ会議で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望からケアプランを作成し、そこからアセスメント、モニタリングを行い、必要に応じ追加、変更を行っている。入居車を職員の担当制とし、スタッフ会議等で再検討し、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化や言動などを記録し、スタッフ会議等で協議、情報共有している。必要時には介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人お一人のニーズに合わせ、ボランティアの支援やご家族の協力を得たり、その時々ニーズに応じて柔軟な支援ができるように努めている。認知症の進行を抑える「臨床美術」の実施、また、希望者には訪問理美容の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や法人行事への参加、近所への散歩、ボランティアの訪問など、お一人お一人が楽しめることを考慮し、スタッフ会議等で話し合い、支援をしている。今年度もコロナ禍のため、一部縮小している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関による訪問診療と専門医の往診を行っている。また、ご家族の希望時には外部通院支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回のバイタルチェックを実施し、入居者の容態変化時は法人内の医療機関の看護師へ報告、相談し、悪化時には受診できるように体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される場合は介護情報の提供を行い、入院中も医師、看護師と情報共有し、連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と年1回、重度化や終末期における指針、事前指定書を説明している。終末期のあり方について、早くからご家族や医師等と話し合い、職員と共有し支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制をマニュアル化し、AEDの操作も随時訓練している。スタッフ会議ではヒヤリハットや事故報告書の振り返りを行い、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で、日中と夜間に想定した防災訓練を年2回実施、地域の災害訓練も年2回実施、参加している。今年度もコロナ禍のため、地域での訓練は中止となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや会話の内容がお一人お一人に適切なのかをスタッフ会議等で話し合い、入居者と同じ目線で、威圧的にならないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できるような声かけ、対応をしている。時には職員から背中を押すような声掛けもするが、表情などをよく観察しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿って、入床や誘導を行っている。地域活動やレクリエーションへもご本人の意向を確認し、無理強いしないように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替えや着ていた服の洗濯等の確認を行っている。入浴後や起床時に化粧をされる方には準備し、行ってもらっている。男性の入居者へは髭剃りを促している。2か月に1回、希望者へは訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人に合わせた食事量、食事形態で提供している。食事中はテレビを消し、静かな音楽を流している。洗ったお盆や食器を職員と一緒に拭いていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。食事形態はその時の体調等により工夫し、提供している。できる限りご自分で食べていただき、困難な場合には職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。職員の介助が必要な方はスポンジ等を使い、実施している。希望者や治療が必要な方には訪問歯科を利用していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人への確認や、お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。昼夜別に紙おむつや尿取りパットを使い分けて使用している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂っていただき、体操や歩行などができるように声掛けしている。便秘時は起床時に牛乳や冷水を飲んでいただいたり、腹部マッサージを行っているが、必要時は医師の指示にて緩下剤の与薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回支援している。身体状況により、安全のため、職員2人で介助を行う場合もある。拒否がある方には、時間を変更したり、声掛けを工夫したりして、無理強いはしないようにしている。必要時には足浴や軟膏塗布も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調を見ながら、休息をとっていただいている。また、空調等にも注意している。お一人お一人の就寝時間や安眠できる体位を把握し、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し、服薬の目的を職員が把握し、薬剤師との連携を十分に取っている。誤薬がないように、職員2人で声出し確認し、服薬介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を確認し、得意なことや好きなことを把握し、会話の中に取り入れている。洗濯物たたみや食器、お盆拭き等のお手伝いをしているが、負担にならないように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見など季節を感じていただく外出や外食は、車椅子の方でも参加できるように配慮している。地域行事や散歩などできる限り実施しているが、現在は人員に余裕がないことやコロナの影響でできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の買い物は職員がお預かり金で実施している。お預かり金の管理については「金銭出納管理委託契約書」を取り交わしたうえで実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が頻回にできないご家族へは電話連絡をした際にお願ひし、実施できている。また、ご本人が希望する場合も取次を行っている。手g身が届いた場合はご本人へ読み聞かせし、いつでも見れるように居室へ掲示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸感いをなくすため、浴室、トイレには表示を掲げている。ロビーの壁面には毎月、季節を感じられる壁画飾りを作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合わない利用者の席は離したり、その日の状態で落ち着かれる場所(居室・ソファなど)でゆっくり過ごしていただいている。利用者は居室とロビーを自由に行き来されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、馴染みのある家具がある方やテレビ好きな方には持参していただき、家族写真や思い出の品等を居室に飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やロビーには無駄なものは置かず、広々として歩きやすいようにしている。共有スペースには手すりが設置しており、動線が分かりやすいようにテーブル等も配置している。居室が分からない方のために掲示物の文字を大きくしたり、花を飾ったりしている。車椅子のフットレストで怪我をされないようにカバーを付けるなど、安全のため工夫している。居室内は転倒されないように、配置には注意している。		